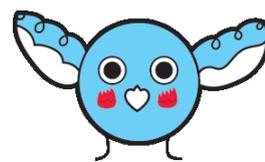


港丸くん「みな」

# みなと



魂っぴー「だま」

## 暑い日が続いています！

夏休みが終わって学校生活が再開し、1週間が過ぎました。今日から9月というのに、毎日暑い日が続いています。教室は冷房を入れていますが、体育館やグラウンドなどは高温で、学校では熱中症に十分気を付けながら学習活動を行っています。

子どもたちは、暑い中での登下校や学習などを大変よく頑張っていますが、少し疲れが見えます。土日、十分に休養を取って、来週からまた頑張れるよう、保護者の皆様のご配慮をお願いします。



暑い中、花の手入れをする環境委員

## 秋田市戦没者追悼式・平和祈念式典

6年1組中川青葉さんが、秋田市内の小中学生を対象に募集のあった「平和へのメッセージ」で、小学生の部で最優秀賞を受賞しました。そして、8月28日（月）、穂積市長から表彰状をいただいた後、あきた芸術劇場ミルハスのホールでメッセージを発表してきました。青葉さんは、しっかりと発表できたと、満足そうに笑顔で話してくれました。



「私が考える平和な世界」 土崎小学校 6年1組 中川 青葉

1945年8月14日、土崎空しゅうは始まりました。鳴りひびく、サイレンの音。泣きさけぶ子どもとお母さんの声。雨のように降ってくるばく弾。戦争を体験した方からお話を聞き、その光景が目にかびました。私がふだん学習したり遊んだりしている土崎小学校の体育館も、兵隊さんの遺体でいっぱいだったと知った時、心がとても痛くなりました。

私が今回、土崎空しゅうについて学び、心に残っていることがあります。それは、「水、水、水。」という子どもの声のことです。この声は、ばく弾の破片が当たり、動くこともできない中、お母さんに必死に話している声です。痛そうな、苦しそうな声でお母さんに伝えている様子が想像できました。土崎小学校の校庭には、空しゅうで亡くなった12人の子どもの受難の碑があります。なにも関係のない子どもが、たくさん亡くなってしまったことを知りました。もし私が戦争の時代にいたら、こわくてたまらないし、動くこともできないと思います。でも本当のこわさは、戦争を実際に体験した人にしか分からないし、きっと私が思う何百倍もおそろしい戦争だったのだと思います。

戦争は、相手の国や自分の国、人の心や体をきずつけます。一番してはいけないことだと思います。土崎空しゅうは、死者250人以上という大きなぎせいを出しました。それを思うと、気持ちが暗くなります。がんばってにげた先でもばく弾により亡くなってしまったという話を聞いた時、どうすれば助かったのだろうと、ずっと考えていました。

私が考える平和な世界とは、人が争わない世界です。ウイルスや台風などによる被害は、自然のものなので仕方ありません。しかし、人が争う戦争は、自ら始めないと起こらないものです。だから、自分から争いを始めないことが大切だと思いました。みなさんにとって平和な世界とは、どんな世界だと思いますか。

## 港っ子のがんばり

土崎空襲犠牲者追悼平和祈念式典  
入選 6年1組 佐渡谷果穂 さん  
「今、私たちにできること」

秋田市戦没者追悼式・平和祈念式典  
佳作 6年1組 小野武明 さん  
「止めなければ・・・」

秋田市戦没者追悼式・平和祈念式典  
最優秀賞 6年1組 中川青葉 さん  
「私が考える平和な世界」

秋田市戦没者追悼式・平和祈念式典  
佳作 6年1組 武田さと さん  
「平和な世界にするために」

## 校長室は大にぎわいです！

今週はずっと暑い日が続き、熱中症警戒アラートが出ているため、休み時間の外遊びをやめています。そのためか、校長室には連日、たくさん子どもたちが来て、コマ回しをしたり歌を歌ったりして過ごしています。

